

長野県産業教育振興会 特別生徒研究実施報告

長野県諏訪実業高等学校 服飾科

- 1 研究テーマ オリジナル作品制作と発表方法の研究
- 2 研究者 教諭 小川淳子 西谷充代 西村美里 山田佐江
- 3 対象者 服飾科 3学年 横溝杏奈 以下 22名
- 4 研究の目的

3年間の専門科の学びの集大成として一人ひとりオリジナルの作品制作を行う。オリジナルデザインを実現するための方法およびステージでの効果的な発表を研究する。問題解決をはかりながら技術および課題解決能力を高め、創造性を育てることを目的とする。

5 研究の概要

(1) 発表会の概要

- | | |
|------|---|
| 名称 | 第15回 服飾科学習成果発表会 テーマ「I love it」 |
| 日時 | 令和6年1月13日(土) 10時30分～12時30分 |
| 会場 | 諏訪市文化センター |
| 発表内容 | I 展示発表の部
・生徒作品展示
・諏訪市「相手意識に立つものづくり科」作品およびパネル展示
II ステージ発表の部 ～卒業制作ファッションショー～ |
| 入場者数 | およそ390名 (服飾科1・2年生67名、招待者195名、来賓17名、職員20名、一般およそ100名) |
| テーマ | 「I love it」 |

6月末に開催したファッションショーのテーマは「Love it」だったが、あえてテーマを大幅に変えず、「I」をつけて自分の作品を、胸を張って大好きだと言えるように、満面の笑みで終われるようにという想いの強さを強調した。3年前にはミシンへの糸のかけ方、縫い方、道具の使い方もわからなかった自分たちが、デザインを考え、自分のサイズで型紙を作り、作品を作り上げられるまでに成長した。この発表会を通して3年間の自分たちの学びを感じていただきたいという思いを込めた。

I 展示発表の部

ボディにファッションショー作品を展示する形をとった。3年生の展示係が計画を立て、展示ブースを設営した。諏訪市「ものづくり科」の小中学生の取り組みの展示も合わせて行った。昨年度まではコロナの影響でパネル展示のみだったが、今年度は作品の展示も行えた。



※ ステージ発表に先駆けて「岡谷シルク推進事業 岡谷アーティスト・イン・レジデンス 2023」参加作品を披露。オール岡谷産シルクのドレスを制作し披露した。



II ステージ発表の部

(1) オリジナル作品制作の過程

オリジナル作品制作のプロセスは、まずデザインを考えデザイン画で表現する。衣服のかたちにするために、これまでの学びを活かしながら自分自身で製図および縫製方法を研究する。

①デザインの発想

作品のテーマを決め、書籍や画集、インターネットを活用してデザインイメージに必要な要素を選び、アイデアを整理し、修正を加えながらデザインにしていく。

②製図

デザイン画をもとに実際に作品を形にするため、文化式原型や1・2年次で製図したものや検定の型紙を使用し、製図をする。デザインに合わせて展開、応用する。平面での製図のほか立体裁断を行いながら製図を作り上げていく。パターンからトワルを作成し、試着・補正を行いながら、イメージに近い形を見つけていく。



製図



型紙配置



③縫製

地直し・裁断・しるしつけ・本縫い・装飾の順で作上げる。3年間で学んだ縫製の技術だけでなく、資料・文献等を参考に制作する。テキスタイルや装飾、着装でオリジナル性を追究する。



型紙配置



しるし付け



トワル製作



芯貼り



裁断



縫製

(2) オリジナル作品例 (デザイン画と完成作品)

<p>「Noir」 何色にも染まらない黒をメインに作成した。多くのフリルをつけてボリュームを出した。</p>	<p>「Dreamy」 フリルとリボンをふんだんに用いた。ドレスに散りばめられたハートと数種の布を重ねたシルエットにこだわった作品。</p>	<p>「Clown」 シャツの襟(ラフカラン)にこだわり、全体的に色彩やかにすることで華やかな印象を作り上げた。</p>	<p>「美麗」 和と洋を組み合わせたマーメイドドレス。白地の布に赤と金を差色とし、華やかさや特別感を演出した。</p>
			

(3) 効果的な発表方法の研究

効果的な演出方法を研究する。発表を通して、作品をより魅力的に見せるための効果的な演出パフォーマンスを以下の①から⑤の過程を通して研究した。

① 広報活動

発表会のテーマはクラス全員で話し合い設定。テーマに沿った広報ポスターを作成し校内に掲示した。各作品のデザイン画と作品解説を載せた。パンフレットを作成し、当日受付で配布した。



パンフレット



ポスター

② ショーの構成の検討

過去の発表会を参考にし、効果的な場面転換・観客を飽きさせない発表の順番の順番等の工夫を計画した。

③ ウォーキング

格技室に舞台に見立ててシートを敷き、11月末よりウォーキング練習を開始した。デザインが映えるポーズや動きを考え、ウォーキングやポージングを繰り返し練習することで、いかに美しく、効果的に見えるかを確認しながら、事前に何度も練習した。



④ 照明、音響計画の作成

作品イメージに合う音響や照明計画を作成した。進行表を作成し、それをもとに、舞台袖より3年生照明係が合図を出し、2年生スタッフが音響・照明効果を演出した。

⑤ エンディング

ショーの最後には、3年生の生徒が1人ずつステージに現れ、最後全員揃ったところでチーフがあいさつをした。テーマ、作品説明、作者の意図について、事前に3年生の生徒全員が考えた文章をまとめ、1人ずつステージに現れる際に2年生の司会が紹介をした。一人一人の工夫やこだわりを、どう表現するか考え、の大きさ、スピード等、観客に伝わる表現の仕方を研究した。



照明合わせの CUE 出し



照明合わせ（場面転換のタイミング、照明の確認など）



ショー





< 1・2年生との連携 >

照明

ピンスポット

音響

受付



5 研究成果及びまとめ

① 作品製作について

学習成果発表会では3年間のまとめとなるような作品を各々のテーマで制作する。女子生徒は、憧れであるドレス系の大型の作品が多い傾向にあるが、男子生徒の中にはピエロを素材にした作品を作り上げ、印象深いものとなった。各々のデザインテーマも、各自の3年間の思いがこもったものであった。素材の選択にあたっては、オーガンジーやレースなどの薄物やフリルを多用したドレス、手芸的な要素を取り入れた作品も見られた。

地道に努力する作業を通して、縫製技術だけでなく集中力や協調性等の様々な力を身につけることができ、学びを深める素晴らしい機会であった。

② 作品展示について

服飾科での学びを紹介するための展示は厳選されたファッションショー作品の展示（ボディーマット）と、諏訪市の小中学生のものづくりの作品とパネル展示を合わせて行った。

③ 1・2年生スタッフとの連携

発表会の裏方を支えるのは1・2年生である。本番では舞台袖からの3年生の指示出し（キュー）をし、照明・音響等の操作を行っている。受付の係員は、様々な来場者を相手にする。担当した生徒達は、終了後には大きな達成感がある。発表からも下級生は先輩の姿から様々なものを学び、来年・再来年度の自分たちの発表に対すると期待と制作意欲へとつながっている。

④ステージ発表

ステージ発表はショー形式で行った。ポスター・パンフレットなどの広報活動、ショーの構成・音響・照明・ナレーションなどを効果的に用いた。服飾科生徒全員がショーの役割を担い、それぞれの責務を果たしながら、自主的に活動を進めた。

広報活動は、生徒がデザインした作品を用いてポスターとパンフレットを製作した。ポスターは校内に掲示するとともに近隣の小中学校や来賓などに送付した。パンフレットは、作品のデザイン画、テーマと制作者の意図やこだわりを掲載した。

照明は専門業者が入るため、事前に照明講習会を行い、照明色による作品の見え方や、スポットの使い方による印象の違いなどの細かい説明を受けた上で、照明計画を立てるとともに。ウォーキング計画を立て、より作品の良さを引き出すことの出来るよう練習を重ねた。5、6月に外部講師に指導してもらい、ポージングやターンの仕方、歩き方、服の見せ方などを教えてもらう機会をもったことで、ウォーキングの表現の幅が広がった。

卒業制作のまとめとして、発表作品のデザインコンセプトや制作方法を「制作レポート」として作成し、下級生の参考となるよう展示している。

また、係ごとに反省をまとめ、2月上旬に2年生の生徒へ引継ぎを行った。

服飾科生徒にとってこの行事は、社会性や様々な気配り、判断力や自主が要求される、緊張感のある総合的な学びの場になっている。服飾科生徒全員が協働して作り上げていくことで得られる学びは、生徒にとって社会へ出たときにも活かせる財産ともいえる力となる。このような経験をさせられる場として、学習成果発表会は機能しており、保護者や教員にとっても生徒の成長を見守り見届けられる素晴らしい経験となっている。